

渡邊龍策 わたなべりゆうさく 支那近代史家。明治二十六年六月東京生れ（一九三一年卒）。河北省政府顧問、華北綜合調査研究所理事等歴任。終戦後は國防部研究專員、北京市企劃委員等として、二十二年まで在留。

著書「スパイと貞操」（木々天六名、昭和二十二年四月一日朋文社）、
『馬賊―日中戦争史の側面』（昭和二十九年四月二十日中央公論社）
「中公新書」）、『女探―日中スパイ戦史の断面』（昭和四十年四月五日早川書房「ハヤカワ・ライブラリー」）、『大陸浪人―明治ロマンチズムの栄光と挫折』（昭和四十一年六月十五日蕃町書房）、『続録川島芳子―その生涯の真相と謎』（昭和四十七年八月二十一日蕃町書房）、『馬賊頭自伝―大野に駆ける男の生きどき』（昭和五十八年二月二十五日秀英書房）、『馬賊夕陽―大野に駆ける男の生きどき』（昭和五十八年四月）（昭和五十八年四月）二十日現代史研究会）、『川島芳子―その生涯―見果てぬ滄海』（昭和六十年八月十五日徳間書店「徳間文庫」）、『馬賊頭自伝』（昭和六十二年八月十五日徳間書店「徳間文庫」）等。

